

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和元年度 福島県意見交換会(第1回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2019年6月18日

● 目次

1. 今年度の意見交換会の方向性
2. 過去の意見交換会
3. 今年度の意見交換会の進め方
4. 議論のテーマ案
5. テーマに関する詳細検討事項

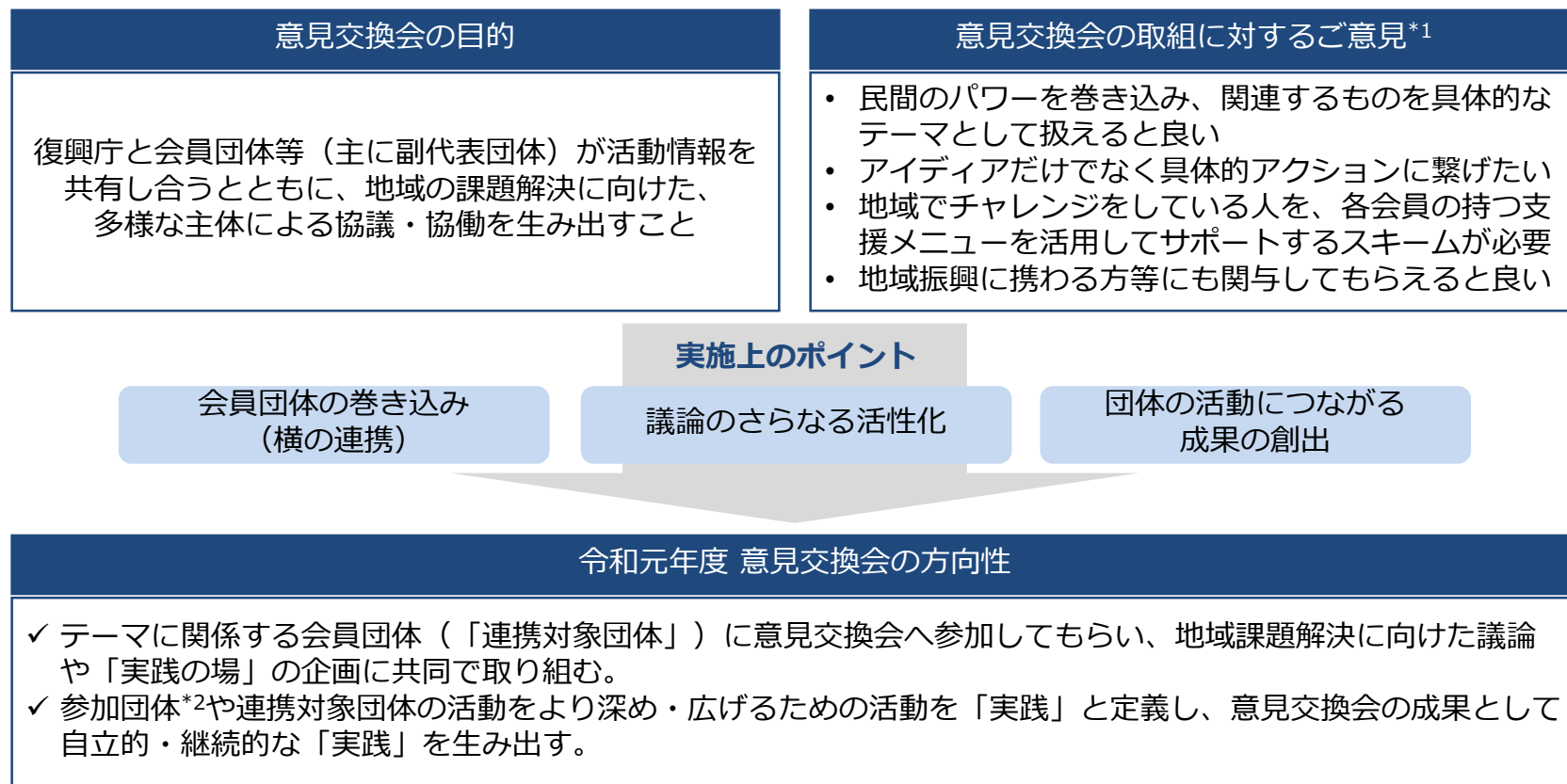
【参考】 岩手県のテーマ案

【参考】 宮城県のテーマ案

● 1. 今年度の意見交換会の方向性

本協議会では意見交換会を、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を互いに共有し、地域の課題解決に向けて協議・協働を生み出す場と位置付けています。

今年度は特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力します。



*1: 3県の第3回意見交換会内の発言を一部引用

*2: 副代表団体およびオブザーバーとして参加いただく団体

● 2. 過去の意見交換会

過去2年間の意見交換会では、地場産業等の人材不足対応策（特に、暮らし方・働き方の理解促進）をテーマに議論を展開。

今年度以降もテーマは継続し、取組を拡大・深掘りすることが必要、との意見が挙がっておりました。

平成29年度

人材×日本酒

第1回	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨説明 活動紹介
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 活動紹介 テーマ議論
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 活動紹介 テーマ議論
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 活動紹介 調査内容の検討
福島県産品・伝統工芸品のPR	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 活動紹介 調査結果を議論 来年度テーマの検討

平成30年度

食・観光・伝統工芸など 地場産業の担い手確保

第1回	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨説明 活動紹介 当年度のテーマの検討
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 活動紹介 テーマ議論 イベント内容の検討
「ふくしまキャリア探求ゼミ」 福島県にU/Iターンをして新たな生活・仕事のスタイルを確立した先駆者の実体験を伝え、理解を深めてもらうためのワークショップ	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 活動紹介 イベントの振り返り 来年度以降のテーマ案検討

今年度以降のテーマ案

福島県で働く人を増やすため、平成30年度と同様、福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進をテーマに取組を行う。これまでの取組との連続性を持たせる。

<取組の具体案>

- よりヒーロー像を広くして「身近なヒーロー」も知ってもらう
（業種・職種、所属組織の規模を変える）
- ヒーロー候補者のリスト化・公表を行い、多くの人に知ってもらう
- 話を聞くだけでなく、現場を見る経験もしてもらう

● 3. 今年度の意見交換会の進め方

昨年度同様、全3回の意見交換会と「実践の場」を開催予定です。

テーマに関わりの深い「連携対象団体」に第2回の議論から参画いただくことで、地域でチャレンジしている人を巻き込んだ「実践の場」の企画や、「実践」の継続を目指します。

実施事項（案）

取り組みのポイント

第1回

1. 意見交換会の趣旨、過去経緯（他県含む）の説明
2. 今年度の方針説明
3. 参加団体の今年度活動内容の紹介
4. 今年度テーマの検討（**連携対象団体の検討含む**）

- ✓ テーマを決定するとともに、第2回以降から参画してもらう連携対象団体についても議論する

第2回

1. 参加団体の活動紹介
2. **連携対象団体によるプレゼンテーション等**
3. テーマ議論
4. 「実践の場」の内容検討
（**連携対象団体を企画時から巻き込む**）

- ✓ 連携対象団体より、現在の活動内容やテーマに対する問題意識・展望などについて共有してもらう
- ✓ 上記を踏まえて、地域でチャレンジをしている人を巻き込んだ「実践の場」や連携の在り方を議論する

「実践の場」の詳細設計～開催～結果整理

- ✓ 会員団体の生業（活動）を深化・拡大させることや、継続的なアクションに繋げることを目的とする

第3回

1. 参加団体の活動紹介
2. 「実践の場」の振り返り、**今後の展望の議論**
3. 来年度以降のテーマ案の検討

- ✓ 「実践の場」の振り返りに加え、今後の活動や体制を、自立的に継続させるための議論を行う

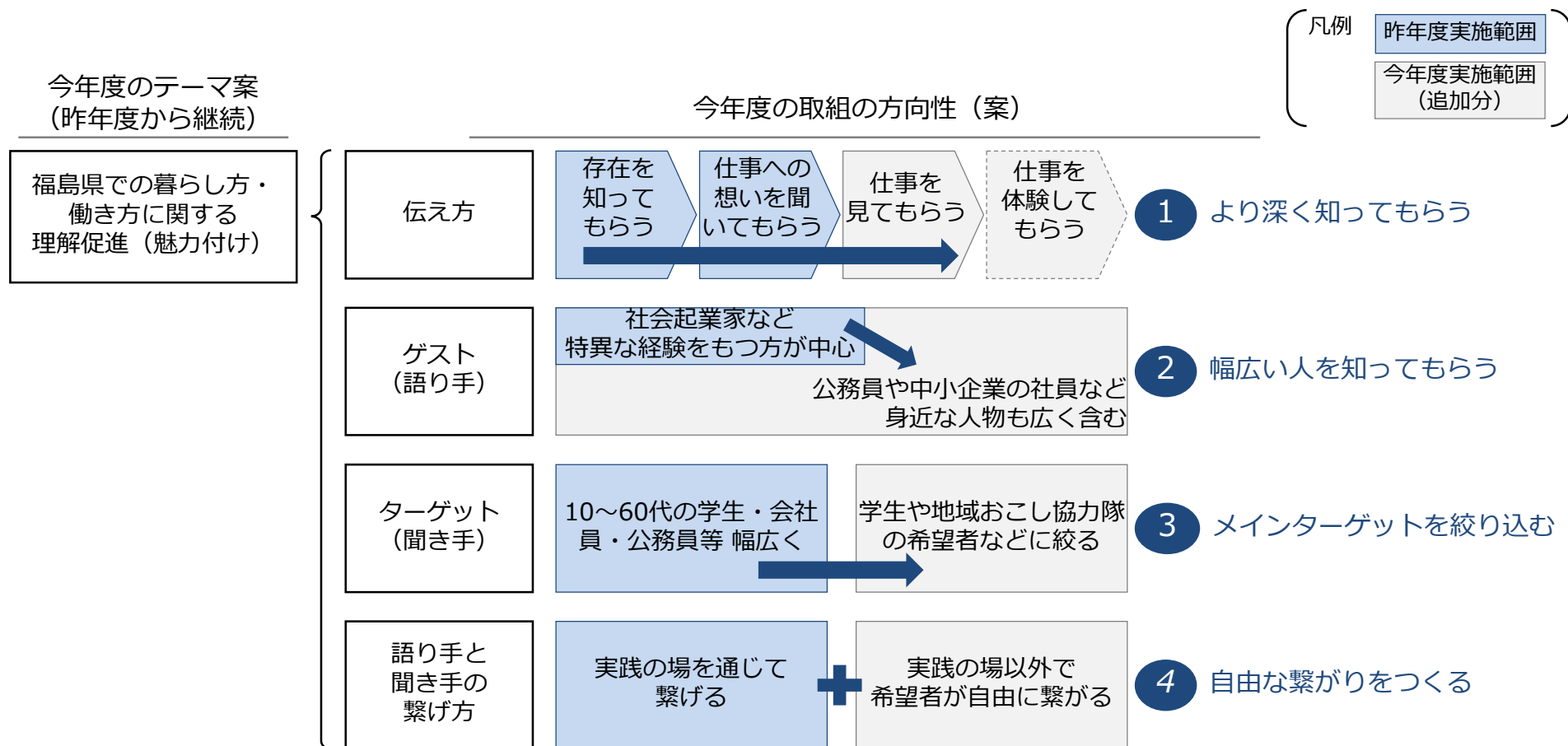
「実践」の継続

- ✓ 今年度の意見交換会終了後も、「実践」を継続する

● 4. 議論のテーマ案

今年度も従前のテーマを引き継ぎ、「福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進」をテーマとする想定です。

また、具体的な取組に関しては昨年度のご意見を踏まえて、事務局素案として以下4案をご提案します。



● 5. テーマに関する詳細検討事項

テーマに対して具体的に議論できるよう、背景・狙いや連携対象団体の候補についてご意見を頂きたいと存じます。

1 より深く知ってもらう

2 幅広い人を知ってもらう

OR

3 メインターゲットを絞り込む

4 自由な繋がりをつくる

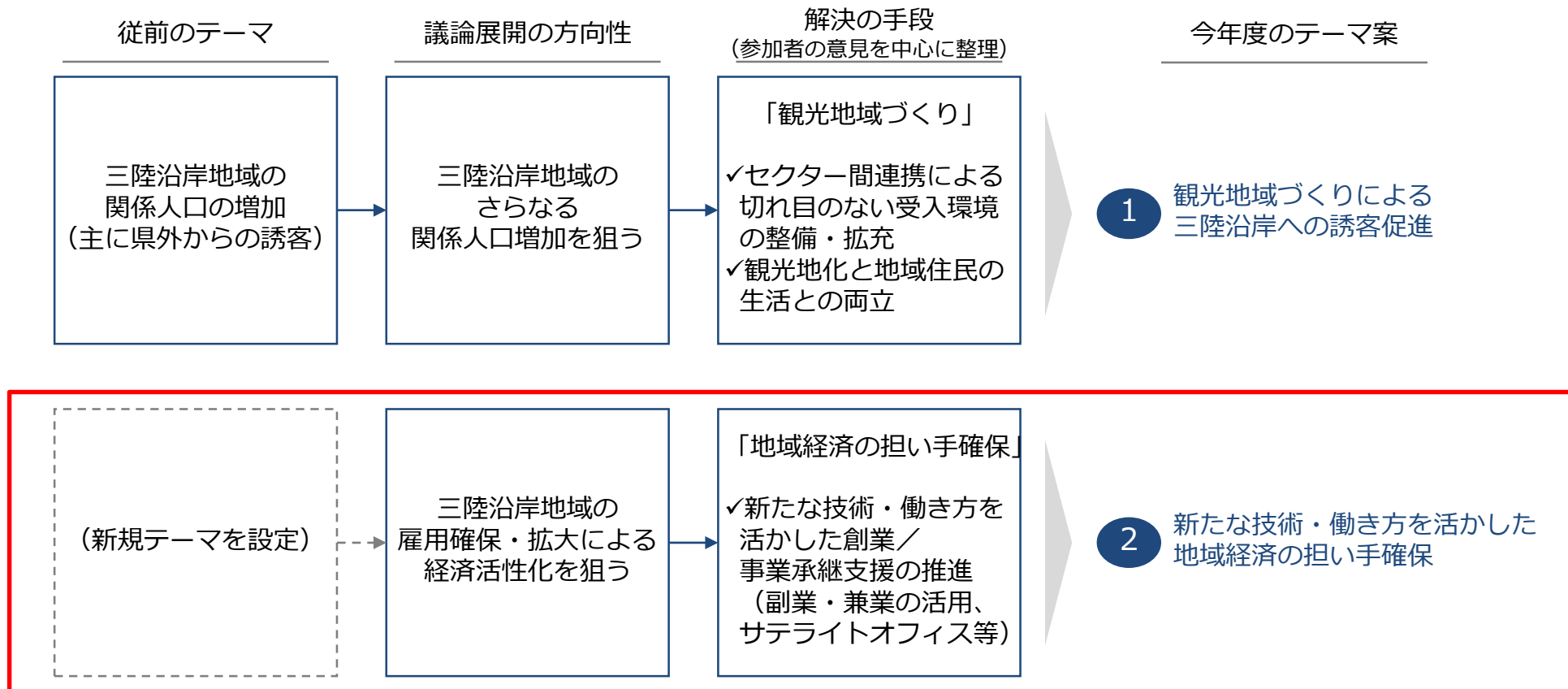
テーマ
設定背景

従前の検討・取組を継続

狙い	仕事の具体的な内容を伝えることで、働き方や魅力をより具体的に理解してもらう。	多様な働き方を伝える 又は 聞き手のある程度絞ることで、聞き手一人ひとりに合ったロールモデルを見つけてもらう。	福島県に興味をもった人が、自ら様々な人物・ストーリーを検索し、知ることのできる仕組みづくりを目指す。
連携対象団体 (イメージ)	・昨年度のゲスト	・県内の企業・NPO・自治体に所属する「身近なヒーロー」	・県内の企業・NPO・自治体等 ・県内の学校
実践の場 (イメージ)	写真等を用いた仕事内容・職場の雰囲気、仕事の簡単な疑似体験（ロールプレイ等）を行うワークショップを開催。	ゲストを変更し、「ふくしまキャリア探求ゼミvol.2」を開催。	・「福島県で働く人の魅力を県外に紹介する」をテーマとしたアイデアソンを実施。
成果 (イメージ)	・県内住民/移住希望者に対して、より強く魅力付けができ、就転職を希望する人が現れる。	・幅広い（又は明確なターゲットに対して）県内住民/移住希望者に対して魅力付けができると共に、今後の協議会活動に巻き込みやすくなる。	・実践の場で検討したアイデアをもとに、参加団体が各自の活動の一環で情報を発信し、福島に関心をもつ人がより手軽に連絡を取れるようになる。
論点	・コンテンツを充実させるため方法（例：他イベントとの共同開催）	・「身近なヒーロー」の探し方 ・昨年度の振り返りを踏まえた、イベントの改善点	・情報の受け取り手のターゲット ・類似の取組（移住事例集や移住サポートメディア等）との棲み分け、又は連携方法

●【参考】岩手県のテーマ案

岩手県では、三陸沿岸地域の経済活性化を狙い、「新たな技術・働き方を活かした地域経済の担い手確保」のテーマに沿って検討する予定です。



テーマ案②に沿って検討

● 【参考】 宮城県のテーマ案

宮城県では、昨年度実施した「南三陸をつなげる30人」の取組を発展させるか、もしくは別テーマを設定する予定です。

